



◆Topic◆ センター試験はなぜ重要か（1・2年生のみなさんへ）

1月14（土）、15（日）センター試験が行われました（多治高受験者数は234名、97.9%が受験）。ラッキーなことに、多治高生は本校を受験会場とすることができました。これは全国的に珍しいケースです（普通はどこかの大学を会場とすることが多い）。サッカーで言えば「ホームゲーム」。前日、校長先生からは「ホームの強みを最大限に生かして頑張ってください」と激励をいただきました。両日とも早朝から雪が降り、薄っすらと積雪がある中、受験する3年生が会場へ到着。正門付近で先生たちから応援チョコレートを受け取り、多くが「頑張ります」と言って会場へ入って行きました。



さてセンター試験当日は、テレビでも新聞でもセンター試験に関するニュースが必ず報道されます。なぜこれほど話題になるのでしょうか。それはセンター試験が大学受験にとって重要であるからに他なりません。

現高3生のセンター試験志願率は43.4%です。最近の4年制大学進学率は約50%ですから、大学進学をする人の9割近くがセンター試験を受けていることとなります。センター試験とはどんな試験か、どんな意味を持つかを以下にまとめました。1・2年生諸君はよく理解して受験に備えてください。

- ① 国公立大学を受けるためには、センター試験受験が必要条件となっている。
- ② 国公立大学の合否は、センター試験と2次試験（大学が独自に行う）の合計点で決まるため、センター試験の出来が国公立大学の合否に直接影響する。
- ③ 私立大学の多くが、入学定員の一部について「センター利用」または「センタープラス」という、センター試験の得点を合否判定に使用する受験方式を採用している。
- ④ 私立大学の「センター利用」方式では、受験料が割安である。（大学は自前で入試を行う必要がなく、大学入試センターから得点をもらうだけで済み手間を省けるため）
- ⑤ 私立大学の「センター利用」方式を使うと、受験生は出願するだけで合否が決まり、あらためて受験に行く必要がなくなる。（ただし「センター利用」は高得点を取っていないとなかなか合格は勝ち取れません）
- ⑥ 「センター利用」方式により、私立大学の受験機会が増やせる。

結論として、国公立でも私立でも大学を受けるならセンター試験は受けておいた方が良い。受けるなら高得点を取った方が良いということです。残り1年、または2年、「大学入試を意識すること」＝「センター試験を意識すること」だと言っても過言ではありません。これから残りの期間、充実した時間の使い方ができることを期待しています。（文責：岡崎）

『3年の窓』 気持ちの切り替えができること、そして最後まで粘ること

ここから先、大事にしてほしいことを2つ言います。

1つ目は、「気持ちの切り替え」ができることです。センター試験で思ったように点数が取れなかったり、解き終わったときにできた感触がなかったりして、動揺した人はいませんか？そして、その動揺が他の科目にまで影響したようなことはありませんでしたか。やはり気持ちが動揺してしまうと本来の力が出し切れません。そこで大切なのが気持ちの切り替えです。難しいことかもしれませんが、「終わったことだから仕方がない、次で挽回するんだ！」ぐらいの強い心を持ってほしいです。私立大学の結果も思い通りに行く人が少ないですから、その都度その都度、切り替えができるようにしましょう。

2つ目は、「最後まで粘る（諦めない）」ことです。先ほども言いましたが、全員が前期試験で第1志望大学を合格できることはありません。第一志望大学の受験チャンスがあるならば、後期日程（最後）まで諦めず、頑張り抜くことです。我々教員も最後まで一緒に頑張ります。毎年、後期日程まで粘って第1志望大学やより上位の大学に合格した先輩方がいます。人生の大きな分岐点になる大学受験を安易に「ここでいいや。」や「もう、無理。」とって終了しないようにしましょう。（文責：波勢）

♪2年の窓♪ 「センター試験1年前」

いよいよセンター試験まで残すところ1年を切りました。君たちは心の中に「今年は勉強やったるぞ」「絶対合格してやる」という熱い思いを持って今年をスタートしたことだろうと思います。

センター試験といえば、「マーク式の問題形式」ですよね。複数の選択肢の中から正しい解答のみをマークするものです。今これを聞いて「選択肢に必ず答えがあるんだから簡単でしょ？」と思った人！！半分正解で半分不正解です。

確かに選択肢の中に必ず正しい解答があるということは、そこにヒントが転がっていることが多くあります。このヒントを上手く活用すれば、英語なら長文の一部を読み取るだけで解答できることがあり、物理なら選択肢を2択に減らすことも可能です。そういう意味では正解ですね。

しかし、実際にはそれだけで解答に結び付けられる問題は限られています。少ない時間の中で、正しい解答にたどり着くためには、豊富な知識と思考力判断力を必要としています。また十分な演習を繰り返す必要があるでしょう。単純に4択であったとして確率的に取れる点数は2.5点です。これでいける国公立大学はありません。確実に志望校を合格するために確実な学力が求められます。

2年生2月にセンター試験のためのマーク模試があります。その前に新聞に掲載されているセンター試験を一度解いてみましょう。国数英ならずで学習した内容になります。自分のこれまでの学習がどれだけできるか、また足りないところはどこか確認し、今年頑張って良かったなと思える一年にしましょう。

(文責：渡邊完)

♪1年の窓♪

2年後に挑戦するセンター試験について今回は特徴的な点を紹介します。

特徴①基礎的な問題！

見たことがある基本問題が50～60%を占めています。国数英の出題に関しては2年生までの学習内容で授業や教科書の内容を着実に身につけていれば解答でき、取りこぼし禁物の問題です。日頃からの授業を受ける姿勢、予習・復習を見直し、確実に学力が付けられるよう意識しましょう。

特徴②結果がいくつもの大学の合否に影響！

センター試験の結果は、国公立大学の前・中・後期入試に加え、私立大学の入試にも利用できます。良い点が取れば、その後の受験がとても有利に進むこととなります。だからこそ1年生の今からセンター試験を意識した勉強が必要です。

特徴③試験時間が長い！

例えば、理科と社会は最大で130分間ほど席を立つことができません。また、英語のリスニングテストは30分間、延々と聞き続けなければいけません。想像してみてください。大事なテストに緊張する中で試験時間の長さ・・・普段50分の授業ですら集中できていない人はいませんか。学習に対する集中力をつけることも重要です。

1月19日(木)のLHRでは、センター試験を終えたばかりの3年生の感想を聞き、実際に出題されたセンター試験にチャレンジします。今から2年先のセンター試験を意識した学習に取り組みしましょう。

(文責：西崎)

